

「NPO 法人」おめでとうございます

可児市文化創造センター館長 桑谷哲男

可児市文化創造センターのパートナーとして活動してきた市民組織の「ala クルーズ」が、市民の会という組織から「特定非営利活動法人ala クルーズ」という、正式名称は少々堅苦しいのですが法人格の組織になったこと、本当におめでとうございます。社会的に信頼され責任ある組織として認知されたことになりました。それだけにこれからが大変です。とはいっても、アート NPO 法人を目指したことは自然な流れだと思います。随分前になりますが、文化創造センターが出来た前のことですからもう記憶にないかもしれませんが、シンポジウムに呼んでいただいた席上で「ぜひ NPO を目指してください」とお話ししたこと覚えていらっしゃるでしょうか。それに応えてくれたかのように NPO になったのは「ala クルーズ」の実力からいって当然かもしれません。

現在、「ala クルーズ」は創造企画・支援・広報と3つのグループを持ち、88人のスタッフで運営しています。岐阜県の公立文化施設のボランティア登録人数の調査でも、その人数は断然際立っています。全国でも88人の登録人数が、3つのグループを持って総合的に事業を行なっている例はそう多くはないと思います。大いに誇れるものです。しかし、驕りと油断は禁物です。いつまでもミッションを忘れないでいただきたい。芸術はどの山に登っても山頂がないように、これで終わりという事はありません。ala クルーズの活動も同様です。そして、次世代につながる NPO 法人を築いてください。NPO は可児市民のための選択でもあったのですから。

『NPO 法人設立 これからの抱負』…

澤野親司

平成 13 年 11 月 ala クルーズ設立当初より、NPO 法人化は、ala クルーズが将来あるべき姿の選択肢としてありました。その後2年間の活動を通して、法人化への移行は重要な要件であるとのことにより、今年度より法人化に向けて具体的な作業を進め、この度、正式に「NPO 法人ala クルーズ」として、新たなスタートができることは喜ばしいことだと思います。

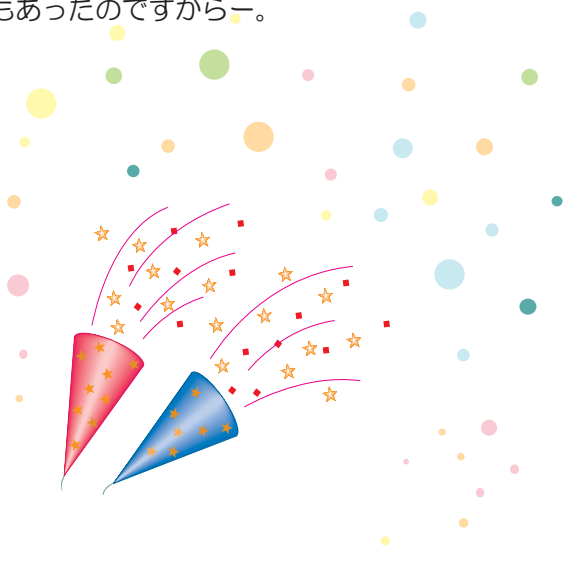
法人化することにより、責任や事務作業が増えるなど負担が生じますが、ala クルーズが法律的に「一つの人格」を取得したことにより、公共施設で活動する我々にとって、市民の皆さんからの信頼がこれまで以上に厚くなることも想定され、ala クルーズの掲げる「自主運営組織」の形が明確にアピールできるのではないのでしょうか。また、活動に幅ができるなど可能性が開けると考えます。ややもすると少しマンネリ化傾向に陥りがちな活動を、これを機に ala クルーズがなお一層の飛躍を遂げることを期待しております。

アールクルーズ NPO 法人化に際して

千藤伸寿

晴れて ala クルーズが NPO 法人として再スタートを切りました。このことは、今までの任意団体として活動することよりも社会的に責任の重さを格段と負うこととなります。私たちは第3の公共(市民セクター)という立場に立ったわけです。公益に資するものとして如何に市民のニーズやウオントを把握し、しかも行政や一般非営利法人(今の財団など)とは異なるスタンスで事業を行っていくか、改めて会員が意識を持たなければならないと思われま。実際のところ NPO 法人を立ち上げたものの、公益性と非営利という枠の中、事業の計画や運営の不備から赤字体質になる法人が多くあります。非営利法人といえども、事業に差し支える計画や運営では継続性に問題が出てきます。

私たちはこの ala クルーズを支えていくために、多くのことを学んでいかななくてはならないでしょう。とにかく、法人化という大きな変革を行った重さを今一度、会員各員が受け止めて前進していけたらよいと思っています。



シネマ・コレクション

alaクルーズの企画の中では、定番になってきた感のある「シネ・コレ」。最近では毎週のように開催され、名画ファンにとって、ala映像シアターはなくてはならない存在になってきたのではないのでしょうか。その中から特別企画上映会の様子をお知らせします。

シネマ&トーク 四之宮監督を迎えて
忘れられた子供たち～スカベンジャー～
10月11日(祝) 13:30～ 小劇場
入場者数 115名

映画を見終わっての第1印象は、「衝撃」でしょうか。それほど、このフィリピンの子どもたちの生活はすさまじいものでした。この映画は、フィリピンの巨大な「ゴミ捨て場」でゴミを捨て家族の生活を支える子どもたち「ストリートチルドレン」の日常を淡々と追ったドキュメンタリーです。

監督の四之宮さんは、偶然出あった「ストリートチルドレン」という題材を数年に渡り撮影し続けることで、自分の生き方を見つけることができたと言います。タガログ語で寝言が出るほど、長期間現地の人々と同じ目線で生活をして見えてきたことは「貧困」と「家族」のあり方でした。そして次に見えてきた課題「家族が幸せになるために」「世界が平和になるために」の答えを求めて、現在は紛争中のイラクで「戦争と平和」というテーマで映画を撮っておられます。

無声映画上映と弁士との対話
あぁ懐かしの活動大写真

12月19日(日) 13:30～ 小劇場
入場者数 142名

会場に詰めかけた多くは、やはり中高年世代。「無声映画」をよく知っていて、懐かしくて見に来たという人が多かったようです。中には名古屋からわざわざやって来たという無声映画ファンもみえました。今回上映された「のらくろ2等兵」や「生まれてはみたけれど」は、無声映画の世界では「現代もの」に分類されますが、それを文字どおり現代の映画といっても通用するほど、古さを感じさせない作品です。

昨年に続いて2度目となった弁士の佐々木亜希子さんは、セリフや語りの間合いが非常にテンポよく、歯切れのいい口調と相まって、観客をどんどん映画の世界に引き込んでいきます。「無声」であることを感じさせないその「話芸」は、活動弁士の魅力を十分に堪能させてくれました。



第2回ホールボランティア会議

ワークショップ「ボランティアマネージメント」に参加して

11月27日岐阜未来会館でホールボランティア会議が開催されました。参加者21名が4グループに分かれてワークショップを行いました。前半は「ボランティアスタッフは何をするのか」を

明確にするための、ニーズアセスメントの把握方法について、ボランティア団体の目的の定め方を仮定し、運営スタッフ・参加ボランティア・利用者の立場に立って意見を出し合い、検討をするという実践的な研修が行われました。

後半は、参加者が実際に実施している事業について、参加者を募るために作成するプログラムシートを作成し、活動内容・求められるボランティア像・参加ボランティアが得られるメリット・責任者を明確にしておくことの大切さを教わりました。

このワークショップに参加して感じたことは、NPOにとって最も再説なのは「組織づくり」であり、組織づくりは「人づくり」であり、人づ

くりには欠かせないものが「ボランティアプログラムの立案をしっかりと行う」ということです。これらを総合的に作業、実施していくことを「ボランティアマネージメント」ということを知りました。

待ちにまった法人化、おめでとうございます。役員の方々、複雑で煩雑な手続き、ご苦労様でした。お手伝いできなくてすみません。

やっと1人前ですか？一人前ということは、責任も重くなることですね。補助金も受けやすくなるしね。しかし、外からの扱いが変わるだけで中身は変わってほしくないです。事大主義、形式偏重、官僚的手法などには陥ってはほしくないものです。自主的に参加し、活動する一人ひとりの市民の集まりであることを、忘れないでいたいと思います。 創造・企画 M. T

良かったです。入ったばかりの私にもわかりやすく説明してくださいました。まず、NPOって何だろう？というところから始まったのですが、難しくて。NPOは“Non Profit Organization”の略でした。「非営利組織」という意味ですが、社会的にきちんと認められたことは大変よろこばしいことだと思います。少しずつ会議を重ねて、形になっていく様を見ることは、参加していて楽しかったです。良い時に入りました。

広報 K. H

NPO 法人になったからといって 取り立てて特に変わる事もなく従来どおり、私なりにできる事を地道に続けていきたいと思っています。 広報 H・Y

入会して半年余りの私です。会員数が多いわりに活動している人が、いつでもどこでも同じ顔ぶれ。あれも、これも、それもでとって忙しそう。(かくゆう私は、今のところ猫の手にもなりません)♪何でだろう、何でだろう♪もっともっと楽しくてやりがいのある組織づくりをしましょう！

alaは翼、小さな羽根は私達。財団とalaクルーズでバランスのとれた素敵な翼をつくりNPO 法人となった今ala(翼)でもっともっと羽ばたきましょう！

創造・企画 N. K

フロントスタッフの仕事(?)を始めて3年目。研修を受けていた時受験生だった娘も大学3年生。学生時代の最後の仕上げに日夜忙しいようです。私といえばこの3年間に記憶を失ったり、眼が見えなくなったり、かなり大変で皆さんに迷惑をかけましたが、alaクルーズもNPO 法人となり立場が確立されたとのこと。私もこの団体に所属していることを誇りにして強く生きていきます！ 支援 K. S

フロントスタッフになった動機は、仕事柄年上の方と接する事があり、言葉遣い、礼儀作法の勉強になると思い、第4期フロントスタッフの研修に参加しました。研修を重ねるうちに自信がなくなり「私には出来ないのでは？」と思いながら研修は終了。

いよいよスタッフとして案内することになり、緊張して笑顔で対応できなかつたり、案内にもたついたりしましたが、先輩方に助けられ無事にコンサート終了。お客様から「今日はありがとうございました。ご苦労様」とやさしく声をかけられ、嬉しく大変だったことも忘れてしまい、頑張っただけ出来たかなと思いました。このフロントスタッフをする事は、自分磨きになり素敵な自分になると思っています。 支援 O. V

今、無償でボランティアやっているわけですよ。もし財団は別として他からお手伝い等頼まれた時、御礼なんてもらえてしまって、alaクルーズの資金になって、どんどんお金がたまったら、alaクルーズ独自で私達の希望する人を呼んでコンサートや演劇とかが出来るのですよね。それでお客様が沢山来てくださったら、またそれでうるおってなんて！！ 支援 ☆. O

あなたが思っていること・・・

この春、研修を申し込んだきっかけはサークルや講習などで何度かアールで活動させていただいていた事もあり、“アールでのボランティア”にひかれた事と、自分自身の成長に繋がると思ったことでした。サークルには親子で参加していましたので、娘も誘い一緒に研修させて頂きました。フロントスタッフとしての活動は半年とまだ浅く、緊張の連続ですが、諸先輩方に支えて頂き、この頃やっと少しは楽しさを感じるようになってきました。この度、NPO 法人となりましたが、“初心”を忘れる事なく、メンバーの方々、お客様との出会いを大切に、今後も活動を続けていきたいと思っています。

支援 ◇. ☆

alaクルーズの活動も一見順調に起動に乗っているように見えるが、各グループごとにそれぞれの悩みを抱え始めている。思っていた事との違いや不満などが表面にでてきたのだろう。alaクルーズが発足して3年目になってひとつの曲がり角にきたのではないかと。各グループごとに意見を出し合って、もう一度原点に戻って見つめなおすことが、これからのNPO 法人としての活動につながるのではないだろうか。これからが試されるとときかもしれない。 広報 N. S

フロントスタッフ交流会

11月23日(火)19時から、広見地内で桑谷館長、籠橋次長他3名をむかえ、フロントスタッフの交流会が開催されました。

34名の参加者で大いに盛り上がり、普段顔を合わせない人たちの間で話の花が咲いていました。

2時間半があっという間に過ぎてしまいました、これからのフロントスタッフ活動に活力を与えられた楽しいひと時でした。



封書詰め (11月22日, 23日)

今年度 3回目の封書詰めが2日間に渡って行われました。今回は全部で5500通。全て郵送されるものです。封書詰めは朝9時から始まり、財団職員とalaクルーズの共同作業によって、手際よく詰められました。封書には会員新聞をはじめ、チケット先行予約販売のお知らせやパンフレットの案内などが折り込まれています。郵送先は市内70%、市外30%です。特に市外へ送る人達の中にはこの封書の到着を楽しみにしている人も多いそうです。そして送られた1通の封書からまとまったチケットの予約をいただくこともあり、この封書詰めも大変な作業ですがアーラにとって最も大切な役割を果たしています。

羽島からの視察

11月21日10時、羽島市文化センターから劇場サポーター「めだか組」19名がalaクルーズの視察に訪れ、alaクルーズからは9名参加しました。まず、坪内課長の案内で主劇場、映像シアターをはじめ各施設を見学し、その後創造スタッフルームにてアーラの説明ビデオを見ました。自己紹介の後、「めだか組」の活動内容が発表され、意見交換に移りました。フロントスタッフについての関心が強いようで、積極的な質問が目立ちました。他にも、「若い方にも参加して

ほしい」「定例会議に参加される人数は?」「制服は貸与か?」「alaクルーズと財団の関係はパートナーシップが理想である」「市民参加」などの意見があり、2時間ほどで視察が終わりました。



非特定営利活動法人
alaクルーズ設立記念式典
1月16日(日) 11:00~
レセプションホール

編集後記

いよいよNPO法人としての活動が始まる。活動内容が特に変わるわけではないが、アーラの中だけでの活動認定がこれからは、外からも情報公開も含めしっかりと見られることになる。今までとは違った重みがかかることを一人ひとりが自覚しなければならぬ時代。

N. S

進め! (9) ほんだひろし alaクルーズ

